

「住友電工がグループ全社規模のRAG基盤を構築

～QuickSolution®の高精度検索×生成AI連携で社内ナレッジを有効活用～」をくわしく

住友電工がグループ全社規模で構築したRAG（Retrieval-Augmented Generation、検索拡張生成）基盤は、エンタープライズサーチシステム「QuickSolution®」を活用して実現しました。この基盤は、社内情報を効率的に検索し、生成AIと連携して高精度な回答を提供することを目的としています。

RAG基盤の特徴

1. 高精度な回答生成

RAG技術を用いて、ファイルサーバーや文書管理システムなどに保存されている数百TB規模の社内情報から必要な情報を検索・抽出し、その内容に基づいて生成AIが回答を生成します^{[1] [2] [3]}。

2. 閲覧権限の考慮

利用者の閲覧権限を考慮し、セキュアな運用が可能です。ユーザーがアクセスできる情報のみを基に回答が生成されます^{[4] [2]}。

3. 迅速な構築

QuickSolution®の生成AI連携機能を活用することで、データの保管場所を変更せずに、わずか2週間で数百TB規模のRAG基盤を構築できました^{[1] [2] [3]}。

利用効果

• 生産性の向上とDX推進

住友電工グループの約29万人が対話形式で社内情報を収集できるようになり、ナレッジの有効活用による生産性の向上やデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が可能になりました^{[2] [5] [3]}。

• 安全な生成AIの活用

生成AIに追加学習を行わず、文脈内学習（In-Context Learning）のみで運用するため、個人情報や機密情報の漏洩リスクが低減されます^{[4] [2]}。

将来展望

住友電工は今後も生成AIの活用を積極的に推進し、RAG基盤の改善と情報源の拡張を計画しています。これにより、情報探しの効率化と社内ナレッジの効果的な利用をさらに進め、競争力のある組織作りを目指しています^{[2] [3]}。



2. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000069.000052418.html>
3. <https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/1539628>
4. <https://www.sei-info.co.jp/quicksolution/functions/generative-ai/>
5. <https://www.sei-info.co.jp/quicksolution/news/news-qs20250307/>